様式第5号(第9条関係)

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	正畠　千夏
Usefulness of ultrasonography for rapidly diagnosing cutaneous sinus tracts of dental origin. (和訳) 外歯瘻の迅速診断における超音波検査の有用性			

(背景)
外歯瘻は歯性化膿性病変が皮膚に開口し、難治性の瘻孔となったものである。診断には口腔内のレントゲンが有用であるが、歯の自覚症状を伴わないことが多いため患者は皮膚科や一般内科・外科を受診することが多い。そのためしばしば誤診され、適切な歯科的処置が行われず、皮膚腫瘍や慢性化膿性病変として長期間にわたって外科的切除や抗生剤投与などの不適切な治療をされることが多い。
(目的)
近年高周波プローベの普及により皮膚疾患における超音波検査の有用性が指摘されている。皮下腫瘤のみならず悪性腫瘍における腫瘍径の測定や皮下組織の状態の観察、血流の観察による良悪性の推測が可能となる。今回外歯瘻における超音波検査の有用性を検討した。
(方法)
顔面の難治性の腫瘍や膿瘍を主訴に当科を受診した3人の患者に対して6-15MHzの高周波プローベを用いてBモード、カラードプラ法にて皮膚局所の状態と皮下組織との関連性、歯槽骨の欠損などを観察した。
(結果)
3症例とも超音波検査では皮膚の病変から皮下組織、さらに歯槽骨へと連続する帯状の低エコー域を認めた。カラードプラ法では瘻孔の周囲に血流の増加も認められ、2症例では下床の歯槽骨の欠損も観察された。口腔内のレントゲンでは3例とも歯根部周囲の透過性を認め外歯瘻と診断した。口腔外科にて根管治療が施行され治癒した。
(結論)
今回、超音波検査により特徴的な所見を認め外歯瘻の迅速診断と早期の適切な治療が可能となった。超音波検査は低侵襲で外来で簡便にできる検査であり、外歯瘻の診断において有力な手がかりを提供するものと考えられた。